

高次機能と呼吸 (S62)

呼吸は自律的にも意識的にも調節されるという点で神経性に調節される生理機能の中でも特異な存在であるが、ホメオスタシスを司る呼吸の自律的調節機構の研究に比べ、意識的調節機構の解明は遅れている。そのひとつの理由には、麻酔下の実験の方が実験条件を確実にコントロール可能なので信頼性の高い結果を得やすいという事情があると思われる。しかし、安静時の自律的調節の解明だけでは、医療における QOL の面からも科学的興味の間からも片手落ちであるのは明らかである。そのような観点から、呼吸の意識的調節機構の解明に果敢に挑戦している方々の最新のトピックスをお話し頂き、技術的課題の克服にまつわる苦労話やユニークな発想の源泉に触れ、この領域並びに関連領域の更なる発展に貢献することがシンポジウムの目的である。

オーガナイザー：桑木 共之（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科統合分子生理学）
荒田 晶子（兵庫医科大学生理学学生体機能部門）

シンポジウム 62 の各シンポジストの発表要旨は WEB 版をご覧ください（筆頭著者名・講演タイトルは以下のとおりです）。

荒田晶子『橋結合腕傍核における発声—呼吸モードスイッチングの神経機構』P.26

本間生夫『情動と呼吸』P.27

有田秀穂『瞑想と呼吸』P.28

桑木共之『行動と呼吸：TRPA1 の役割』P.30